令和三年度　後期日程　入学者選抜学力検査問題
日本・中国文学科　国語　解答例

一

問一　①伸縮　②帰着　③恣意　④交錯
⑤獲取　⑥簡便　⑦反響　⑧雰囲気

問二　A　ウ　B　エ　C　イ　D　ア

問三　抽象性を帯びた本作品表現の中で、唯一、具体性・現実性を備えたように見える「笛を吹けよ」という一行をとりあげることによって、言語を「指示表出」と「自己表出」の両面から相対的にとらえながら、言語の現代的「分裂」について説明することが可能であると考えたため。

問四　ア

問五　現代においては、表現者が本当に表したい内容についての「自己表出」と、対象を客観的にとらえる「指示表出」の機能とが乖離してしまっており、これは、言語が歴史的に機能化してきたためであると筆者はとらえている。すなわち、表現が具体性を帯びれば帯びるほど、本当に表したいことの本質から遠ざかり、そのことが表現者の葛藤につながるということである。（またこれらを克服するためには、表現の受け手が、分裂した「自己表出」と「指示表出」の雰囲気の総体をつかまえる必要があるとも筆者は述べている。）

二

問一　ア　和歌の道・歌道
イ　興に乗って行く
ウ　（並の程度でないくらい）素晴らしく
エ　夢から覚めて
オ　わけもなく・むやみに

問二　女性の様子と袖のかぐわしさも、開善寺の庭の梅と同じく、今夜の月と素晴らしさを競っていると文次には思われる、ということ。

問三　女が梅木の精であり、共寝の翌朝には、男の袖に梅の香りを残して消えるだろう、ということ。

問四　「甲斐もあり」と「有明」、「有明の月」と「尽きせぬ」、「樵り」と「懲りる」、「（投げ）木」と「嘆き」。

問五　②

三

問一　①　すでに　②　よりて　③　いなや　④　ここにおいて

問二　ひといまだおおくはしらず

問三　a　昨有～移之　b　河南～季野

問四　(1)　褚公（褚季野、一倉父）
(2)　褚公を高名な人物だと思わず、ただの田舎者であり、沈充よりも軽く扱ってよいと考えたから

問五　場所を移すことを思いつく余裕もなく、そのまま牛小屋で褚公に名刺を差し出して挨拶し、牛や羊をつぶしてごちそうを捧げ、勘違いした宿の役人を鞭打って無礼を詫びようとした。

問六　褚公は沈充と酒を飲んだが、言葉も様子もいつもと変わらず、失礼な扱いを受けたことなど覚えていないようであった。